

(別紙)

地域密着型金融推進計画の個別項目ポイント

項目	具体的な取組みおよび目標と実施スケジュール			
	17年度上期	17年度下期	18年度上期	18年度下期
1. 事業再生・中小企業金融の円滑化				
(1)創業・新事業支援機能等の強化	毎月の融資役席会議時に、業種別審査ポイント、財務分析、企業支援についての勉強会開催。 具体的な案件については、上部団体や外部関係機関と連携し、積極的に対応。		(左記に加え)融資審査の「事例集」作成。	
(2)取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化				
a.取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	(株)ベンチャー・リンクによる取引先企業向け公開講座の実施。 顧客からの相談に担当者が専門家と直ちに協議し迅速に解決する「クイックレスポンス」の運用開始。	不動産売買に関する不動産情報システム(本部集中)構築。 社会保険労務士による取引先企業向けセミナー開催(助成金制度、就業・労務管理、企業年金制度等)。	左記の施策を発展的に継続。	
b.要注意先債権等の健全化等に向けた取組みの強化	企業支援施策を事業計画に組み込み、支援活動対象89先を抽出。 経営改善計画の進捗管理と評価。 施策の実績評価と改善点の有無を検討。 8月末でとりまとめ9月に経過報告を行う。 目標 1割程度のランクアップ	上期と同様の活動を継続。 2月末でとりまとめ3月に経過報告を行う。	経営改善計画の進捗管理と評価。 支援活動先の洗い替え。 17年度上期の以降を繰り返す。	上期と同様の活動を継続。 2月末でとりまとめ3月に経過報告を行う。
c.健全債権化等の強化に関する実績等の公表	前期の実績を店頭およびホームページにて公表。 前期の実績をディスクロージャー誌に掲載。		前期の実績を店頭およびホームページにて公表。 前期の実績をディスクロージャー誌に掲載。	
(3)事業再生に向けた積極的取組み				
a.事業再生に向けた積極的取組み	具体的な案件が発生すれば積極的に対応する。特に、企業支援活動を進める中での活用可能案件に注目する。			

項目	具体的な取組みおよび目標と実施スケジュール			
	17年度上期	17年度下期	18年度上期	18年度下期
b.再生支援実績に関する情報開示の拡充、再生ノウハウ共有化の一層	具体的な案件が発生すれば積極的に対応する。			
(4)担保・保証に過度に依存しない融資の推進等				
担保・保証に過度に依存しない融資の推進	信金版スコアリングモデルであるSDBを利用した福岡県信用保証協会との提携商品を開発。	左記商品を推進。 商品の評価、改良検討、推進状況の追跡調査。	推進計画の見直し。	
中小企業の資金調達手法の多様化等	事業からのキャッシュフローを重視し、担保・保証に過度に依存しない融資の推進を図る。その一方法として、上記信用保証協会との提携商品を取り扱う。			
(5)顧客への説明態勢の整備、相談苦情処理機能の強化				
a.審査部によるアプローチ	約定書、契約書を差入方式から双方契約方式へ変更。 民法改正に対応して、「与信取引説明マニュアル」を改訂。	法令の改正等への迅速な対応。 相談・苦情の内容を把握し、「与信取引説明マニュアル」の改訂を検討。		
b.監査部によるアプローチ	「相談・要望記録票」の活用による迅速な対応。 苦情、トラブルの原因分析および再発防止策の検討。 各種会議における公表等による苦情等に関する情報の共有。			
(6)人材の育成				
	融資開拓の実践を担う業務推進部融資企画部門配置職員のローテーション実施。 公募により5名の職員をFP資格取得外部研修に派遣。	適切、効果的と判断される派遣研修等の実施。 業務推進部融資開拓部門配置職員のローテーション実施。		
2.経営力の強化				
(1)リスク管理態勢の充実	バーゼル に関する情報の収集と当庫への影響の見極め。 目標 2ケタの自己資本比率	バーゼル に基づく自己資本比率の試算。		
(2)収益管理態勢の整備と収益力の向	業務推進部融資企画部門を中心とした融資推進、開拓を継続。 SDBの有効活用。 信用リスクの計量に関するシステム化および企業信用格付けシステムの構築検討。 適正な金利設定の観点から、条件緩和債権の判定基準となる基準金利を策定。 管理会計の整備に向けた情報収集。			(左記に加え)適正な金利設定の観点から、企業信用格付けシステムの応用。

項目	具体的な取組みおよび目標と実施スケジュール			
	17年度上期	17年度下期	18年度上期	18年度下期
(3)協同組織金融機関におけるガバナンスの強化				
a.半期開示の内容充実		全国信用金庫協会等からの情報を踏まえ、「わかりやすさ」をモットーとしての確に対応。		全国信用金庫協会等からの情報を踏まえ、「わかりやすさ」をモットーとしての確に対応。
b.総代会の機能強化		地区別の幹事総代増加計画を策定。		幹事総代増加を実行。
(4)法令等遵守(コンプライアンス)態勢の強化				
a.営業店に対する法令遵守状況の点検強化等	別に定める「平成17年度コンプライアンス・プログラム」に基づく事項の実施。 内部監査によるコンプライアンス指導の強化。 「平成18年度コンプライアンス・プログラム」の策定。		「平成18年度コンプライアンス・プログラム」に基づく事項の実施。 内部監査によるコンプライアンス指導の強化。 「平成19年度コンプライアンス・プログラム」の策定。	
b.適切な顧客情報の管理・取扱いの確保	役職員への周知徹底、教育、訓練。 「個人情報受渡票」利用の徹底。 紙帳票出力の削減および見直し。 FAX誤送信防止システムの検討。 電算室の入退室管理システムの導入。 顧客情報システムの更改検討。		左記の施策を発展的に継続。	
(5)ITの戦略的活用	画像を読み取る「イメージ処理システム」の導入による公金・公共料金など収納事務の合理化を検討。	「新営業店端末」への更改により、新しい信用リスク管理システムおよびALM/収益管理システムの利用を可能にする。	左記の施策を発展的に継続。	
(6)協同組織中央機関の機能強化 (金庫による上記機能の活用)	信金中央金庫の「特別定期預金」約定および同「期限延長特約付き定期預金」の検討。	信金中金「期限延長特約付き定期預金」の検討。		
3.地域利用者の利便性向上				
(1)地域貢献等に関する情報開示				
a.地域貢献等に関する情報開示	7月中のディスクロージャー誌の公表。 ミニ・ディスクロ「おんしんの通信簿」第13、14号の発行。	「おんしんの通信簿」第15、16号の発行。	7月中のディスクロージャー誌の公表。 「おんしんの通信簿」第17、18号の発行。	「おんしんの通信簿」第19、20号の発行。

項目	具体的な取組みおよび目標と実施スケジュール			
	17年度上期	17年度下期	18年度上期	18年度下期
b.充実した分かりやすい情報開示の推進	「暮らしのあんしんコーナー」の充実を通じて顧客の質問や相談等に応える。相談内容や件数の記録の充実を図る。		本店に設置している「暮らしのあんしんコーナー」の表示板を全店に拡げ、一層のアピールを図る。 ローンおよび債務とりまとめに関する相談が約33%を占め(17年度上期実績)、実行に結びつくケースも多いため、代表事例をホームページ等で公表することも検討。	
(2)中小企業金融の実態に関するデータ整備	金融当局による対応項目			
(3)地域の利用者の満足度を重視した金融機関経営の確立	<p>全役職員を対象に「接遇マナーレベルアップ研修」実施。 7月に「顔面認証・全自動・全日稼動」の貸金庫を医大前支店に328個開設。 「暮らしのあんしんコーナー」のポスター、チラシを全店に配布し、専用ステッカーを渉外を中心に配布。 7月に、「地域共生店舗3号店」として車椅子の方も利用できる「お客様専用トイレ」等を設置した新芦屋支店をオープン。 2月より証券取次ぎ業務開始。 地元医を講師に招き、岡垣支店のロビーにて「ロビー講座」を開催。 本部にて、クラシック音楽会、地元作家の版画展を開催。 地元版画家デザインによるカレンダー(一部、専用額入りで定期訪問により中身入れ替え)配布推進。 地元絵本画家による「メチャカード」の配布推進。 2月にできた地域貢献課の活動充実。</p>	<p>「地域共生4号店」として10月にオープンする福岡東支店に、医大前支店と同様の貸金庫を328個設置。 「暮らしのあんしんコーナー」の統括部署を本部に設置し、全店対応を一層推進する。 「接遇マナーレベルアップ研修」の仕上げ。 畑正憲氏による「おんしん講演会」を開催。</p>	<p>利用者の声を反映し、「地域共生店舗」の今後の展開を検討。</p>	

項目	具体的な取組みおよび目標と実施スケジュール			
	17年度上期	17年度下期	18年度上期	18年度下期
(4)地域再生推進のための各種施策との連携等	<p>地元経営者の勉強会・異業種交流会等の組織との連携を図る。</p> <p>八幡西区折尾地区を対象とした「地域通貨オリオン」への事業参加。</p> <p>各地区における「祭り」への参加。</p> <p>芦屋町主催の「砂浜の美術展2005」へ砂像出展。</p>	<p>勉強会活動の継続。</p> <p>各地区における行事、祭りへの参加。</p>	左記の施策を発展的に継続。	
4.進捗状況の公表	店頭およびホームページ等により、分かりやすい公表を行う。			